

演 題	施設内の写真を使った危険予知訓練
副 題	介護事故予防、再発防止のために

フリガナ	カイゴロウジンホケンシセツ コウフカワセミアン
施 設 名	介護老人保健施設 甲府かわせみ苑
フリガナ	シエンソウダンイン キッタ ノリオ
発表者(職名・氏名)	支援相談員 橋田 憲雄
フリガナ	ジコボウシタイサクイインカイイチドウ
共同研究者	事故防止対策委員会一同

～はじめに～

甲府かわせみ苑では事故防止対策委員会が中心となり日頃から介護事故への対策を行っている。しかし、転倒転落により骨折に至るケースが年に数件あり、その中でも同じご利用者様の類似する状況下での転倒転落事故が何回か再発した後に骨折に至ってしまうケースが見受けられる。骨折により入院し手術を行った場合、治療のための臥床期間が必要となってしまう。入院となった場合、筋力低下や認知機能の低下などの弊害も生じてしまうことが考えられる。そのような状況となると退院後の生活が大きく変化してしまい、入院前と同じ生活は難しくなってしまう可能性がある。このような状況にならないために対策を検討し、事故報告書を作成しているが、勤務交替などによりどうしても周知徹底がうまくいかず意識が薄くなってしまいうという現状があった。以前は介護事故防止のためにイラストを使用し、危険予知訓練を行った事もあったが、当施設内のご利用者様の生活風景の写真や転倒転落事故が発生した状況を再現した写真を使用した方がより効果が出るのではないかと考え、実践することとした。

～方法～

介護事故の中でも、入院期間や身体状況が大きく変化しやすい転倒転落事故に着目して行う。当施設の傾向としては転倒や転落が何度か続き、その後骨折等のため入院が必要となるケースがみられる事がある。そのため、予防と再発防止を目的とし、転倒転落などの事故が発生した際はその状況を写真に撮り当施設独自の危険予知訓練の用紙を作成する。その写真を見ながらどのような介護事故が考えられ、どのようにすれば予防できるかを各フロアごとに事故防止対策委員会と一緒に介入し検討を行い介護事故の予防と再発に努めることとする。また、検討した内容の周知徹底のため清書した書類を各フロアに設置し、どのご利用者様のどのような状況の時に特に注意しなければならないのかといったことを明確化し、より一層の意識統一を図るため勤務前に目を通してから業務に入るようにする。

～結果・考察～

今回この取り組みを行ったが、ここ数年の同時期で骨折事故が最も多かった平成 28 年の上半期には転倒転落による骨折が 6 件で、そのうち 5 件が再発によるものであった。そして本年、平成 30 年は転倒転落による骨折は 1 件発生しており、この骨折は再発によるものであった。骨折を 0 にはできてはいないものの、例年に比べると成果をあげられた。事故件数自体も平成 28 年上半期は 50 件であるのに対し、平成 30 年上半期は 37 件と減少がみられた。

その要因としては、

1. 勤務に入る前にファイルに目を通すことでどのご利用者様のどのような時に特に注意すべきかを認識でき、休み明けなどの際も状況が把握しやすくなった。
2. 職員が個々に考え、実践している事故防止につながる良い対応方法を共有することが可能となり職歴や経験に関係なく事故防止に努めることができる。
3. 職員間の情報共有がしやすくなり意識統一につながった。

以上のような点がある。

～まとめ～

ご利用者様の介護事故というものは日々の生活の中で必ずといってもよい程起こってしまうものである。その中でもベッドや車いすからの転落や、歩行中の転倒などによる大腿骨頸部骨折や転子部骨折などは介護事故の中でも上位を占めている。治療のために入院し手術後にリハビリを行っても骨折前の ADL 状態まで回復されるご利用者様は少ない傾向がある。在宅復帰に向けた日々の介護やリハビリを行う介護老人保健施設として、ご利用者様に安全に過ごしていただける環境作りはとても大切なことであると考えます。また、ご利用者様が認知症など様々な疾患を患っていても可能な限り安全に生活できるように私たちが事前に予測し対策することで介護事故を少なくしていく必要がある。今回は転倒転落事故に着目し、危険予知訓練を行ったが、今後はヒヤリハット報告書ともリンクさせ、施設内の様々な生活場面の写真を使用した危険予知訓練を行い介護事故の予防と再発防止に心がけていきたい。